

## 花巻市社会教育委員会議（会議録）

日 時 平成27年5月28日（木）午前10時30分～午後0時

会 場 花巻市生涯学園都市会館 3階第2・第3中ホール

出席者 委員出席者 16名 紺野盛委員、高橋啓悦委員、福盛田弘委員、佐々木勝男委員、小原幸子委員、紺野佳子委員、木村直樹委員、尾美裕功委員、石橋恕篤委員、市川浜委員、佐藤公一委員、伊藤晴二委員、佐々木繁夫委員、藤本眞津子、門馬優子委員、菊池清委員

委員欠席者 3名 佐々木隆樹委員、安藤聡子、佐々木さつき委員

市側出席者 6名 細川生涯学習部長、市川生涯学習交流課長、菅原同課長補佐、同課小原主任主査兼芸術文化係長、同課上野生涯学習係長、同課菊池主事

報道機関 1名 岩手日日新聞社 似鳥政美

傍聴者 0名

次第 1 開 会

2 あいさつ

3 議 題

(1) 花巻市生涯学習振興計画策定に係る市民意識調査について

(2) 振興センターでの生涯学習事業について

4 その他

5 閉 会

### 1 開会

（事務局：菅原補佐） ご案内の時間となりましたので、次第に従いまして進めさせていただきます。それではただいまから平成27年度第1回花巻市社会教育委員会議を開催させていただきます。

### 2 あいさつ

（事務局：菅原補佐） はじめに、細川生涯学習部長よりご挨拶を申し上げます。

（事務局：細川部長） それでは皆様、大変お忙しい中、今年度第1回になります花巻市社会教育委員会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。本日は生涯学習振興計画、今年度現計画が計画期間満了ということになっておりますので、新年度に向けまして今年度新しい生涯学習振興計画を作って参らなければならないという中で、まずは現在の状況を把握するためのアンケート調査を計画しておりまして、それについてご審議をいただくということでありまして、それと2点目といたしましては、振興センター、27振興センターにつきましては、職員が合併後、振興センターの制度が始まって以来10年弱、職員が1名常駐して参ったところではありますが、今年度から正職員が引き揚げになりまして、代わりに市が雇用する非常勤職員が1名常駐しているという状況に今年度から変わったところがあります。生涯学習事業につきましては、前年度に引き続いて変わらない状況で現在運営を進めているところでございますけれども、この現在の計画といたしましては、この非常勤職員も今年度で終わりになって、各コミュニティさんの方へお委ねをしていくというような一応見込みになっておりますけれども、生涯学習事業、振興センターでいろいろ行われてきた訳ですが、これらの今後の在り方といいま

すか方向性について、やはり今まで議論が不十分だった部分もございますので、本日は議題とさせていただきながら委員の皆様方のご意見を頂戴して、より良いあるべき方向を探って検討して参りたいと考えております。今日は、なかなか2番目の部分などは簡単に答えがでるような状況ではないかとは思いますが、委員の皆様方の率直なご意見をお聞かせいただければありがたいなと思っておりますので、ぜひよろしくお願い申し上げます。本日の会議、時間の限りもございますけれども、ぜひ活発なご意見をよろしくお願いたします。

(事務局：菅原補佐) 続きまして、石橋議長様よりご挨拶をいただきたいと存じます。よろしくお願いたします。

(石橋議長) 石橋でございます。本日はよろしくお願申し上げます。私事でたいへん恐縮でございますけれども、自宅から職場まで車で通勤しているのですけれども、その途中で最近目に付くのは道路の脇に新しい建物が建っていて、あれは一体どういうものなのだろうかと、民家なんだろうかそれとも商業施設なんだろうか、いろいろ頭の中を駆け巡ったりしている訳なのでございますが、その施設の中に一体どういう方々がいらっしゃるのだろうかと思ったりしておりました。話は変わりますが、ある時、子供らが食事をご馳走したいから来ないかということで、人の集まる食事の場所へ行ったのでございますけれども、そしたら4、5人のグループが入ってきていろいろ話をしているんですね。「花巻はこうだよ、ああだよとか」とかというような話をしているので、花巻と言ったので興味があつてですね、大きな声で、聞こえてくるものですから話を聴いていたんですね。花巻の良いところとか、悪いところとかいろいろな話をしていましたけれども、総じて皆、人柄、良い人たちだというような話で落ち着いたようでした。花巻に建物が建てば、いろいろな人の出入りがあるだろうと思えます。私の職場でもですね、留学生がおりますが、韓国とか中国とかですね。そういうようなところもおります。教員もおります。そういうような中で、いろいろな考えを持った人が花巻に集まって欲しいなと私はいつも思っているのです。話をしてみますと、なかなか意見も合わないことはあるのですけれども、そういう人たちが、いろいろな意見とか独特な考え方を披露しておりますけれども、そういう人たちが花巻に入ってきてですね、地元の人たちと交流をしていろいろな考え方を披露していただければですね、花巻の人間というものもいろいろ田舎だとかそういうことを言われたりもしますけれども、新しい考え方に目覚めてですね、活発な活動ができるのではないかなと、そうすることによって花巻から岩手、あるいは日本へといろいろ情報も発信できるのではないかなというような考え方をもってですね。新しい人たちに来てほしいなと、職場に通いながらそんなことを考えていました。本日はですね、議題が2つほどございますけれども、先ほど部長さんがおっしゃられたとおりですね、活発なご意見を頂戴できればと思っております。今日はよろしくお願いたします。ありがとうございました。

### 3 議事

(事務局：菅原補佐) ありがとうございます。それでは早速協議の方に入らせていただきたいと存じますが、ここからの進行につきましては議長様にお願いたしたいと思っております。石橋議長様よろしくお願いたします。

(石橋議長) ただ今から、私が議長になりまして司会をさせていただきます。議事に入ります。初めに花巻市生涯学習振興計画策定に係る市民意識調査について、説明をお願いたします。

(事務局：市川課長) それでは、議題の(1)花巻市生涯学習振興計画策定に係る市民意識調査についてご説明いたします。資料No.1をご覧くださいと思います。

～ 配布資料No.1について説明 ～

(石橋議長) 今担当の方から説明がございましたけれども、皆様この点についていかがお考えでしょうか。ご意見を賜れば幸いです。生涯学習振興計画の策定に際してアンケート調査をしたいということでございます。委員の皆様のご意見を頂戴したいと思います。ご意見ございませんでしょうか。

(佐々木(勝)委員) このアンケートの内容を見ますとかなり幅広い年齢からアンケートを取る形になっていますよね。そうすると年代によってかなり希望が違った形で、年代ごとに希望が集まった格好ででてくるのだと思います。そうした時にそれにうまく対応できるのでしょうかね。問5の(2)というのは2頁にございますが、そのところにたくさんありますよね。こういうような希望にその下のような期間でうまく対応できるのかということを読みながら感じております。パソコンの操作等のようなものであればこれはもうできるのだと思いますけれども。それ以外の経済ですとかどういうことを想定しているのかわかりませんが、対応できない部分がかなり出てくるのではないかと、そんな気がします、どのようなものですかね。

(事務局：市川課長) かなりですね、確かに問5の(2)の答えは細かく書いているのですが、極力イメージしやすいようにですね書いて分類したつもりでございますし、「経済」というのはどういうことかというと分かりづらいかもしいですけども、経済を学びたいとかですねそういう考えがもしかして多いのかもしれないですし、「社会」という分類も少し大雑把なのですが、イメージとしてとらえてくれる方々があるとすればですね、そういう分類があってもよいのではないかとということで極力細かく設定したものでございます。実際には生涯学習、講座の中で考えらえる設定はできるのかなというところをみまして選んだつもりではあります。

(石橋議長) 佐々木委員さん今の説明でよろしいでしょうか。

(佐々木(勝)委員) よろしいです。

(石橋議長) ありがとうございます。他にご意見はございませんでしょうか。

(伊藤(晴)委員) 生涯学習計画を策定する上での意識調査というのは大変私も必要だと思いますが、私も生涯学習に関わってきた者の目からすると、生涯学習をする人は、やっている人はすごくやっているのです。やっていない人はほとんどやっていない。やっている人の回数はたぶん何か所にもいわゆるジャンルを分けながらやっているという方も多いのですよ。そうなる問題なのは、関心がありながら参加できない人たちがどんな思いをしているか、なぜそれを一歩踏み出せないかというのが、私も常に疑問に思っておりまして、私の地区のコミュニティ会議で6、7年前にアンケートを取ったことがあるのですが、やっぱりその時にも思わぬものが出てきているんですね。大分前だから忘れましたが、仕事が忙しいとか興味が無いとか、あるいはあるのだけれどもきっかけが掴めないとか、そういったことがあるので、生涯学習は、市として策定する場合は、そういう関心ありながら一歩踏み込めない層の人達をどうやって取り込むか参加させていくのが、大きなポイントなるだろうと私は思っておりますので、その辺りについてどのように考えているかお聞きしたいなと思います。

(石橋議長) ありがとうございます。今、生涯学習をやっている人とやってない人がいるのだけれども、関心があるのだけれども参加できないという人をどのように取り込んでいくかというようなご質問の要旨であったと思います。この点についていかがでしょうか。

(事務局：市川課長) 私もそのように思います。やはり、参加する人はですね沢山参加できますし、その一歩というのがやはり重いなところがありまして、次の生涯学習計画でもですね広範囲に参加いただくにはどうしたら良いかというのを十分考えたいと思います。アンケートでは3頁の問5の(6)に参加しない去年やらなかった方の理由をまず考えておりまして、「仕事が忙しい」とか「家事とかで忙しい」とかいうことで聞きたいと思っておりますし、何よりこのアンケートをですね多分出してくれないのではないかな、回答してくれないのではないかと思うのですね。この参加しないような方々は。そうすると極力、市民アンケートという市で実施しているのがあるのですけれども、結構、頁がありましてですねちょっと書きづらい面もあります。そういうアンケートを何回も送られるとですね大変だという面もあるので、極力この生涯学習、もっと聞きたいことはあるんですけども、極力短めに設定いたしましてですね、簡単にわかりやすくイメージをつかみやすくということをめざして項目設定をして、そういう方々に是非回答していただくように、というところもめざして考えたところでございます。

(石橋議長) ありがとうございます。今の回答で伊藤委員さんよろしいでしょうか。

(伊藤(晴)委員) それではもう一つ。さっきのアンケートに戻りますけれども、実は男性が少ないのですね参加が。女性はすごく多いんですね。女性で何か所も行っているという方も。それでですね男性が少なくて、どうやって講座をつくるかということで考えたりしたのですけれども、例えば、男の料理教室を企画いたしましたけれども、1年目は多かったですね、十数名。多いといってもその程度ですけれども。年々やっぱり減ってきてまして、男性をどういわゆる生涯学習に参加していただくかというのがポイントの一つになるということと、もう一つが、今やっているサークルがありますね。かく各団体、各地区で。趣味みたいな感じであるのだけれども、その会の方々の声を聞くこともすごく大事ではないかと。多分努力していると思うのですね、それぞれの団体が。減ってきているあるいは増やすにはどうしたら良いか、あるいはどんな問題があるか、ということがあると思うんですよ。そういうアンケートだけでなく、現在あるそういうあの、このまなび学園でやっているところは、もうそういう対策ができていると思うけれども、各振興センター単位でやるとなかなか声が反映しにくいという面があると思うので、是非各振興センター単位での実際やっている人たちの声を聞いていただきたいなというふうに思います。

(石橋議長) ありがとうございます。実際やっている方々の意見も聞いてみてくれというような要望でございますね。他の委員さんで質問はございませんでしょうか。

(門馬委員) まず質問なのですけれども、無作為で幅広い年代それから選ぶということですが、そういう場合統計学上とうなるか分かりませんが、偏るということはないのですか。各年代ごとにバランス良く回答者が散りばめられた方が回答の結果としてはいいのではないかなと思うのですけれども。広く選ぶということなのでしょう。まとめてもう一点なのですけれども、生涯学習、ここの会場のまなび学園は本当に表彰もされたようだけれども素晴らしい成果をあげていらっしゃるし、参加者の意欲も高くて、よその地域に比べても

素晴らしい成果をあげていると思いますけれども、花巻市内の方々は容易に参加したければ参加してこれられると思いますけれども、周辺、東和、私は東和なのですけれども、石鳥谷、大迫との格差、すごく開いていると思います。合併する前はそれぞれの町でも盛んに行なわれていたのが、職員数が減った、それから総合支所単位での事業が少なくなり、コミュニティ会議とか振興センターの方におりてきて、そうすると勢い規模が小さくなります。学習といっても。そうすると、質的にも量的にも格差が広がっているのではないかなと。今度のアンケートがそういうふうなことの解消につながるような方向にいけばいいなと思っております。

(石橋議長) 門馬委員さんありがとうございます。はい、どうぞ。

(事務局：市川課長) 今の件なのですが、無作為に抽出してですね偏らないかという、偏らないようになっているという変ですけども、やはり人口で多い所もあれば少ない所も当然あります。ただ、ここからいくらというよりは、無作為にやったということの方がですね、平均値を取れる理由にはなりますので、まずこれで行きたいと考えておりますし、周辺で参加できない、その辺はうちの方も気にしてましてですね、今回の質問の中でも、生涯学習をやった場所、例えばですね、2頁なのですけれども、「どこで行いましたか」、「まなび学園」、「大迫」、「石鳥谷」、「東和」という設定で質問というか回答欄を作っております。わざわざですが。これは大迫の総合支所なりでやる生涯学習の講座というのもあるのですけれども、参加者が減っているのか増えているのか、減っているように見えるのですけれども、実際どんな感じになっているのかなということも踏まえて振興センターの方では参加しているのだけれども、支所等では参加していないということも捉えたいなということを考えておりまして、次期計画では当然その辺も踏まえてですね、振興センターでの生涯学習も当然あってもいいと思っておりますし、支所単位でやっていた部分もちょっと落ちている部分もあるものですから、その辺りをどうしていったらよいかというのを踏まえて、今回のアンケートでみまして計画に反映させていきたいと考えているものであります。

(石橋議長) 門馬委員さんよろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは佐々木委員さん手を挙げられていたようですけれども、どうぞお願いします。

(佐々木(繁)委員) 佐々木と申します。3つあります。まず1つはアンケートの内容について、よく考えているなと思っております。もう少し付け足せばとかいろいろあるのですが、大体これでいいのではないかと考えております。話したいことが3つあります。1つは前回確か平成27年度までの基本計画あったと思いますけれども、その総括、それを反省して今回このようなアンケートになったと思うのですが、計画をやるのだけれども、その評価、振り返りが以外と不十分だということがあるのだけれども、その結果で出てきたと思いますが、前回の市民のパブリックもやりましたし、懇談会もやったわけなのですけれども、その振り返りの現実はどうだったのかということをもうちょっと知りたいなと。これが第1点です。第2点につきましては、やっぱり相談窓口が弱いのではないかなと思っております。そういう面ではアンケートでもありましたけれども、相談窓口の件が書いてありました。これはとっっても、いいなと思っております。私もあちこち行ったりしているのですが、よく言うのは、札幌の市民活動の団体の例なのですが、そこは結構、いろいろなミニサークルからいろんなグループがパソコン、印刷、それから相談する人がいて、いろいろな市民に場所を提供しているところなんです。詳しく説明していると時間が足りないのですが、市では地域支援監が確かにあります。あとは、この生涯学園都市会館もいろいろなことをやっております。これはこれでいいと思います。また、シニア大学は昔から有名ですが、た

だ夜になると、下の所はどちらかというと高校生が中心であまり小さなサークルが話し合いをできないので、それは部屋を借りなければならないので、それはそれでいいのですが、そういう生涯学習における窓口というか相談員があればいいなとも思っております。ある自治体では、生涯学習コーディネーターとうことでちっちゃなサークルから、あるいはNPOを作るにはどうしたらいいとか、そういうのをやっているの、生涯学習コーディネーターのような方が非常勤でもいいので、そういう方がいればいいかなと思っております。3つ目です。ここに生涯学園祭があります。これはとってもいいなと思っております。ただ、私に言わせるところに縁のある主なサークル、同好会が中心になっているような気がします。これもある自治体なのですが、ある自治体では民間が組織して民間による運営でお祭りもして、そしていくらかの補助は市から出ると、運営もその人たちというのがありましたし、あと別な自治体ですが、学園祭にその市内にあるサークルの人たちが、サークル加入を呼びかける公開講座のようなものをして加入を呼びかけるようなこととか、あとは、全然違いますが、昨日まなびの体育室が解放の日だったのですが、子供たちが中心だったんですが、ある自治体、これは仙台のちっちゃなところだったんですが、毎週、月に1回土曜か日曜か忘れたのですが、市民活動日ということで団体に入らない人達にこういう場を提供するとそんなのもありました。ということで、ここに女性の市民活動サポートセンターが3階にですね、ありましたけれども、そういうような場が1階かどこかにあればうれしいなとそんな気がします。以上です。1つは10年計画の反省、総括どのようにとらえているかということと、あと相談窓口を、要するに生涯学習に参加できない方、冷たいことを言うとプログラムに興味、面白くないから来ないからといえればそれまでなのですが、そのサポートシステム、この学園祭を拡充させたいなという、そういう3つです。

(石橋議長) ありがとうございます。今、まとめていただきましたが、1つは、反省、評価、それからもう1つは、コーディネーターがあればいいと思われるなということ、3つ目としては、学園祭の活動活発化と申しましょか、その3点だったと思います。この点についてはいかがだったでしょうか。

(事務局：市川課長) 1点目の前の計画につきましては、今まとめているような状況です。我が課だけではなくてですね、他の部署にも関係する部分もありまして、それらをまとめまして、また次のですね、次の委員会になるか、これからですね具体的に素案をみなさんに検討していただく時にですね、こんな結果が出ていまして、という段階でご提示できるかなというイメージでおります。あと、2番、3番につきましても、今回のアンケートなどでも意見を市民から聴きたいと思っておりますし、それらを踏まえまして次期計画で検討させていただきたいというふうに思います。

(石橋議長) ありがとうございます。佐藤委員さんどうぞ。

(佐藤委員) この意識調査は、内閣府でも何年かに一度やられておりますし、県でも平成10年にやりましたし、平成20年もやっております。ちょうど私も20年、自分が手掛けたことがあるので、ちょっと思いがあるのでお話をさせていただきます。私がやるときにもどうしても悩んだのが、「5の(2)」です。何かといいますと、すみません、「5の(2)」ではなくて「5」ですね。「あなたは生涯学習活動をしたことがありますか」と聞かれて、何を物差しに判断するのかということです。理論的に言うと生涯学習というのは、自分の好きなところで、好きな内容を、好きな方法でやることを言います。ですので、ただ、それを聞くというのは大変なことなので、私、代案はないのですけれども、すごくすとんと落ちない。この流れを見ると、やっぱり、「講座に出ていますか」とか、そういうイメージが生涯学習なんだな、ということ植え付けてしまうというのが非常に難しいところなん

だなどというふうに思っております。そういうちょっと感想になるのですけれども、そういう懸念が一つあるということと、でもまあ、平成19年に花巻市ではやってらっしゃいますので、やっぱりこれを経年でとっていくということ、そして全国とか、県との比較をするということにおいて、たぶんこの調査の結果によって、さっき出ましたが、一つの総括といいますか、花巻はこういうところが秀でているんだとか、こういうところが進んでいるんだとか、あるいは、ここが今後もっと通らねばならないところである、といったところがきちっと出てくるんだと思いますので、そんなに毎回、毎回大きく変えていくと比較ができないという意味では、大体こういう感じになるのかなと思っています。最後に1つ、先ほどの生涯学習をどう捉えるかという問題と関連をして、「問6の(6)」なのですが、「生涯学習をもっと盛んにしていくためには、」という問がありますが、生涯学習を盛んにしていくということは、どういうことなのか。つまり、皆が講座を受けるようになればいいのか、サークル活動をすればいいのかということになってしまうのではないかと。ですから、このあたりは市として生涯学習の振興をどういうふうに生かしていくのかというようなビジョンとか、何をめざすのかということも少し可成り可能であればですね、花巻市としてはこういうふうに考えていますということ少し補足をしないとどうしても結果、まなび学園に通っているのが生涯学習だよな、というようなイメージを植え付けてしまうのではないかと。これが一番恐れているところでございます。循環型社会というか、学んだことが具体的に生かされているかということが問われているわけですので、そのあたりを花巻市としてどう考えるかというところは検討しておく必要があるのではというふうに思っております。以上です。

(石橋議長) ありがとうございます。今のご意見は、生涯学習の判断基準は何なのかという質問と、生涯学習を盛んにするという意味内容はどんなものか、という2点についてのお尋ねだったと思いますが、いかがですか。その点についてご回答お願いいたします。

(事務局：市川課長) おっしゃるとおりですね、1頁の生涯学習活動、生涯学習というのがどういうイメージを一般の市民に質問して捉えられるのかというのがありまして、そこが、私どもでもかなり悩んだところなんです。「B」としてですね、「生涯学習活動(自主的に行う学習活動でスポーツを含む。(小・中・高等学校教育を除く))」という書き方を、実は前回のアンケートではこういうのを書いてなかったのですが、こういうふうに設定をさせていただいておりました。厳密に言えば、学校教育も入るとは思いますし、ちょっと違う部分もあると思いますが、わかりやすいところで、「自主的に行う学習活動」でスポーツも含む、ということを書く、わかりやすいかなと。学校まで入れてしまうと、また複雑になるものですから、15歳以上なので高校以上なのかなということなのですが、より分かりやすくこちらの目的に沿ったイメージを持って、持たせるような設定で今回はやろうかなというふうに考えました。市のビジョンとしてある程度示してアンケートを取るというやり方も確かにあると思うのですが、今回はまだ前回の計画の総括ができていない段階でありまして、まずは基本的なところ、皆さん市民はどう考えているのかというところを取りたいと考えておまして、「問6の(6)」もですね、かなり大雑把な質問なのですが、ちょっと、皆さんは生涯学習ってどのように考えているのかなというところを掴むために設定したところでございます。

(石橋議長) 今の回答ですが、よろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは、紺野委員さん。

(紺野(佳)委員) 今の市川さんの回答で大変よかったですと思いました。生涯学習って聞かれても、ちょっとイメージがわからない人もいますし、意識しないで学習している人もたぶんいると思うんです。ここのBのところを書

いてくださった一言が取っ掛かりになるのではないかと、だからまずこのアンケートをとってみて、そしていろいろな点を考察できるわけですから、そこから考え出すというのも一つありかなというふうに感じました。私が前から気になっていたのは、花巻市の生涯学習の基本計画というところで生涯学習の基本づくりというところですね、生涯学習をやることによって、地域づくりに役立つ人というか、学校や家庭、地域など社会全体が一体となった人材育成を進めると書いているので、生涯学習をした人がどういうふうなことをすれば花巻市のまちづくりのための人材となりうるのか、というようにところをずっと考えておりました、この役を引き受けながら、いつか答えを見出さなければならぬのではないかなと思いつつも、なかなか難しいところでした。だからかえってそういうところからいくよりも、具体的なアンケートがどういうふうに出てきたか、そこを検討する方がいろいろなことが浮かんでくるのではないかなと思つておりました。先ほど生涯学習がまなび会館に来て講座を受ける人、それから、講座を設けた場合にそれに参加する人だけが生涯学習になりはしないかという、これはあると思つています。そこに行っていれば生涯学習、だけれども、意識しないけれども日々学んでいる人たちというのは私の身の回りにも結構いらつしやる。そういう人たちはなぜ講座に来ないのかという、講座に来ないで自分でやっている訳です。でもそれが、もっと市民のために広がればもっと素晴らしい花巻市の生涯学習になるのではないかなということは感じておつています。ですから、これからも出てくるようですが、振興センターが中心になってより広く市民の方々の生涯学習に対する関心を広めていくということとはとても大事なことです、表れないところの声をどのように拾い上げて、花巻市の生涯学習としておさえるかということもひとつ考えていただければいいのかなと思つておつています。以上です。

(石橋議長) 紺野委員さんの話でした。これについてはいかがですか。

(事務局：市川課長) おっしゃるとおりですね、生涯学習ですね、かなり前から言われてはいるのですが、どの程度市民に浸透しているか、生涯学習でまちづくり、地域づくり、ひとづくりと言われておつておりますけれども、そこもどうなつているかというのは、実際我々やつていられる方というか、関わつていられる人は分かつていられる部分がありますけれども、講座に参加しない人たちは一体どうなんだというところもありますし、そういうところも踏まえまして基本的な調査をしてから、しっかりと方向性を定めていくべきかなというところもありますので、委員の皆様にはご意見を段々お聞きしながらですね、いい計画にしていきたいというふうにお考えしております。

(石橋議長) ありがとうございます。

(佐々木(繁)委員) 一つだけです。私たちにとって生涯学習とは何だというのをはつきり知りたつような気がするんです。皆さんで言いたいことを言い合つて、生涯学習活動ってどんなこと、何のため、あとは市の方針とも絡めて、どういう意味があるのかというのを何か法談したいなという気がします。例えばひとりだつていいんじゃないの、一人で自分で学んで、あと自分でいろいろなことやつていられる人もいよ、あとはよく市の行政の評価にあるのは、この各振興センターの出席率、参加者の数だけで評価しあつていられるのではないかなという気がします。もちろん年代もあると思うし、あと同じ人だけというのもあると思うし、あと年代の陥没している部分もあると思うので、生涯学習というのとは何だ、一人でできないのか、あるいは講座に来ないといけないのか、私はパチンコ同好会だつて生涯学習活動できると思つています。私たちは同好の士だ、たまには子供たち集めてこんなことをやろうではないかとか、あるいは4、5人でもやつてやれないことはないと思つています。ただ実態はどういうものかというのとは私たちが知らないような気がします。出来上がったグループ、サークルだけ。実際私もい

ろいろなイベントをやっているのですが、大きなのはツーデーマーチなのですが、その参加の数だけではなく、やっぱり中身ではないかなと思っております。先ほどに戻りますが、市にとってのあるいは私たちにとっての生涯学習活動って何だどんなことだっというのを何か確認したいなという気がします。以上です。

(石橋議長) ありがとうございます。佐々木委員から生涯学習の意味というか意義というか何なんだということを確認しておきたいなというお話で、問題がちょっと一巡したような感じではございますけれども、その点について再度説明いただければ。

(事務局：市川課長) そうですね、計画を作っていくにあたっては、やはりそういう位置づけもしっかりして、その中で花巻市はどういう面を目指していくのかということとまとめ上げていきたいと思っておりますので、そこは計画策定の中でですね、いろいろ検討をして皆さんと話し合いをしながらこういうことだというふうにしていくということをお願いをしたいと思っておりますけれども、いかかでしょうか。

(石橋議長) 佐々木委員さんよろしいでしょうか。それでは、大体議論も循環し始めた感じもありますので、次の問題に入りたいと思っておりますが、その前に何か述べておきたいという方、いらっしゃいませんか。それでは、次の振興センターでの生涯学習事業についてでございます。ご説明をお願いいたします。

(事務局：市川課長) それでは資料2をご覧くださいと思います。

～ 配布資料No.2について説明 ～

(石橋議長) ご説明ありがとうございます。振興センターでの生涯学習事業についてということで、現状はどうなっているのかということと、今後の方向性をどちらに向かわせるか、方向性がどういふふうにあるべきなのかと、そういうふうなことから構成されているようでございます。委員の皆様のご意見を頂戴できればと思います。小原委員さん。

(小原委員) 先ほど部長さんが非常勤職員の雇用は今年度で終了とおっしゃった気がいたしますが、この流れを継続していくと考えたとき、私たち生涯学習をやっていくのにコミュニティによく行きますよね。そしてその流れがポツツと切れちゃうんですね、新しい職員が次々とやってくると。そうするともう一回これ前も使わせていただいたとか、この事業やりたいといったときに、流れがスムーズにいくように何とか引き継ぎですか、そういうふうなものをきちっとしていただければいいと思いますし、大きな事業をやるときは、総合支所とかまなび学園で集まってくださいということはあると思いますけれども、私も東和なのですけれども、こちらの方まで出かけてくるっていうのは大変なんですね。だから、コミュニティ単位で、地区かな、石鳥谷とか大迫とか東和で主要行事をなさるといこともあった方が生涯学習にはずっとずっといいのかなと思っております。以上です。

(石橋議長) ありがとうございます。小原委員さんでしたが、流れをスムーズにということと、場所についてでございますね。この点についてお願いいたします。

(事務局：市川課長) 今年度もですね、結局去年までの職員を全部引き上げて、また新しい職員、非常勤にしている部分もございまして、ご指摘のとおりやはり引き継ぎとか経験というのはかなり大きい部分を占めますので、長くやっていた職員がまた全く新しい人に替わってしまった部分、ちょっと難しいといえますか、うまくいってないところも事実あります。そこは十分ですね、間違いのないようにですね、本庁の方の配属された職員と一緒に、今日も矢沢地区でですね高齢者の学級がありまして、矢沢の非常勤の職員とうちの職員が二人行って対応しておりますので、その辺は十分にやっていきたいと考えております。あと当然支所単位ですね生涯学習というのも市で主体的にやっていきたいというのは残していきたいという、今の方向性でやっていきたいと思えますし、無くする予定ではなくてですね、支所単位での講座もやっていきたいと考えております。

(石橋議長) ありがとうございます。小原委員さんよろしいですか。ありがとうございます。他に何かございますか。

(市川副議長) 振興センターでの生涯学習事業との題目なのですがすけれども、地域の活性化を図る地域づくりという、そういう狙いもある中で、自治公民館とか自治会とかそういう末端での活動を持っている、先ほども人数のことがありましたが、人数からいったらかなりの生涯学習がその底辺で行われているのではないかな。そういう中で振興センターとそういう末端集落、自治公民館とのつながりもかなり重要ではないかと思えますし、当然、力も入れていかなければならないのではないかなと思えます。そういうことでは先ほどからいろいろお話も出ているわけですが、知らず知らずのうちに、そういうことにみんなで一緒に関わっていると、それがやっぱり地域づくりの原点になっているのではないかなと思えますが、そこら辺りはどのようにお考えになるのでしょうか。

(石橋議長) ありがとうございます。いわゆる末端といえますか、自治公民館とそれからセンターとの関わり合いについてはどうなのかというようなご質問だったように思います。この点についてはいかがでしょうか。

(事務局：市川課長) 振興センターでは、市の講座という形で今やっているわけですがすけれども、将来的には、市でやる講座もありながらもコミュニティがやっぱり地域づくり主体でやっている講座をやっていくような形にお願いしていきたいというふうに考えておりますし、もちろんまた末端の自治公民館等で講座とかサークル活動という感じですが、やっている方はたくさんありますし、それがまさに本当の一番の末端の組織と言えば変ですがすけれども、本当の地域づくりに大変役立っているだろうなということは認識しております。ただし、そこが、連携を取ってできているのかどうか、というところまではちょっと私も把握していないのですがすけれども、そういう部分も、次の生涯学習の計画の中に書き込んでいくということは可能だと思いますし、振興センターでの生涯学習を今後とも進めていく上で、自治公民館での学習も推進していきましようということは当然あっていいという変ですがすけれども、地域づくりの根本となる部分は自治公民館でやっている活動だと思うのでですね、それはいいかなと思えますけれども。

(事務局：細川部長) もう少し補足いたしますが、実際は実態というのは、現場あるいは地域によって全然違いがあると思えますので、一概には言えないという部分は当然あるかと思えますけれども、つながりとするは今自治公民館はこちらの生涯学習の方で協議会さんとも担当してやっている。でも実態は地域づくりという色もかなり濃いという流れがございまして、生涯学習と地域づくりということで前は一緒に感じだったのでしょけ

れども、部も別れてしまって、あるいは地域として以前でいう地区の公民館と自治公民館というラインですと何となく繋がりそうなイメージだったんですが、その部分は振興センターという、地区の自治公民館ということで、何となく名称的にも微妙になっている、そういうことでそれを特に意図したということではもちろんないわけなのですが、生涯学習を現実振興センター単位のもの、いわゆる少なくしていくということではなくて今まで以上に盛り上げていく中で、役割分担を模索していくことによって、今副議長さんからご指摘のあった自治公民館との繋がりあるいは地域同志の中での連携ですとか、そういった方向にも線が繋がっていくような方向にいけば非常にありがたいことだなというふうには思いますので、そういった部分に視点を持ちながらやっぱり我々の方でコーディネートしていけるような体制と言いますか、方向性と言いますかそういったものを皆さんのご意見をいただきながらやっていければいいなとは考えております。

(石橋議長) ありがとうございます。他の委員さんいかがでしょうか。佐々木委員さん。

(佐々木(勝)委員) 昨日ちょうど花巻地域自治公民館連絡協議会の総会をやりました。その中でも、いろいろ話が私のところに聞こえてきていることがあるのですが、振興センターにあるコミュニティ会議、このところに生涯学習を移していくとかそういうことをしていったときに、自治公民館で今いろいろやっている取り組みと関連してくるかということをご指摘がありまして、そういう中でコミュニティ会議で生涯学習に関わる自治公民館活動にはこういうふうな部門が担当するよ、例えば花北振興センターの中にある花北コミュニティ会議でいいですと文教委員会というものがあるんですよ。その文教委員会がちょうどそれを担当していると。ただそれが今ある自治公民館、例えば私は小舟渡公民館ですが、そういうふうなところの活動等どう関連させていくかというそういう部分が今全くないので、したがってだぶった活動、例えば講演会をやるといったときに、小舟渡公民館では花巻の郷土の歴史を学ぶという講座の中で講演会をやっているのですが、それとだぶったような形の昨年講演会が実施されたという、そんなふうなことがあって、そういう点は今地域の方々と最も近い位置で活動している自治公民館、自治会、このところとそのリンクしていくかということが大事になってくるのではないかなと思っております。そういうふうなことで担当者が、振興センターの担当者の方が、花北振興センターでも非常勤の方に替わって今までやっていた文化祭とかそういう行事に対する取り組みの中で、私も関わっているので、そういう中で非常勤の方が文化祭をうまくサポートできるのかという、今そういう前回の方を見ながらそんなことを感じているのですが。そういうふうなこともあったりして、その辺をきちっとしていく必要があるのではないかと、こんなふうなことを思っています。

(石橋議長) 佐々木委員さんの質問でしたが、非常勤職員さんがちゃんとうまく対応してくれるかどうかのご心配のようでしたが、その点についていかがでしょうか。

(事務局：市川課長) 先ほども申し上げたとおり、やはりどうしても引き継ぎがうまくいかない部分とかですね、そういうのはありますが、極力、差なりですな間違いなりが生まれないようにこちらとしてはサポートしていきたいと思っておりますし、その辺は大丈夫といいますかできるだけやっていきたいというふうに思っております。それから先ほどの自治公民館でやったのとコミュニティでやったのと重複してしまったりとかその辺の連携はどうなんだろうというのは確かにありますが、自治公民館でそれをやってコミュニティでも同じことをやったから悪いことではないと思うんです。自治公民館はやっぱり内々の親しい本当の暮らしの単位の中ですね、そういう生涯学習の、まあ生涯学習とは思っていないと思いますよ、ただ学習活動なり勉強会をしようというこ

とが当然あってもいいし、それがコミュニティの中でも大きい単位でやれば、それで生まれる効果というかはまた別だと思えますし、違うことも情報も入ってきますし、違う方向にも進んでいくということもあると思うので、情報だけは共有できるような形で進めていけばいいかなとは思いますが、こっちでやったからあっちではやらないということはないのではないかなと思うので、その辺り言われたとおり連携をとるといいうい方の中には入ると思いますがけれども、情報を共有しながらやっていった方がよいかなどは考えます。

(石橋議長) ありがとうございます。そうですね、時間もちょっと迫っておりますので、質問は1分以内に要領、要点をつめてご質問をお願いします。佐藤委員。

(佐藤委員) 地域課題の解決のための社会教育事業という言い方をすれば、この生涯学習事業には社会教育的な事業もまず含まれていると考えてよろしいですか。よろしいですか。それでは早くお話しします。2点あります。1点目は、地域住民の主体性であるとか自由度の高いものをこれから進めていくんだということはよく理解できましたので、これは結構なことだと思いますけど、よく言えば地域特性なんですけれども、悪く言えば地域格差というものもあると思うんですよね。市としてどういう地域づくりをしていくかという大きな理念のもとに、各地域が特色ある地域づくりを進めたときに、それをどういうふうにその状況を把握していくかということを引きちと明示しておかないと、昨日もちょっと自治公民館の会合でお話しをうかがったのですが、交付金やりっぱなしで事業やりっぱなしで、その総括がなかったみたいな話をされた方もいてですね、自由度の高い主体性のある生涯学習事業をやるのは結構なんですけれども、市の枠組みの中でやるのであればやっぱり状況把握をして、いやこのところは力を入れていくべきだというような全体を俯瞰して見るような立場の人間というか組織がなければいけないだろうと。もう1点は、非常勤職員を配置するのは結構なことなのですが、その地域の生涯学習を支援するべく、そういう意味では専門職員と位置づけられると思いますが、その研修機会をどう確保していくかということも、これもその中にセットとして明示していかないと、もやっとしたままで終わってしまうという懸念があります。

(石橋議長) ありがとうございます。2点ございました。見方によってはその特性が格差ということと結びつく。自由度と思うんですけれども。そういうふうな状況の把握についてですねどうなっているのだろうと。それからですね、人ですね。非常勤職員が配置されているけれども大丈夫かという心配だったのでしょうか。その2点だったと思います。

(紺野(佳)委員) 関連ですので、コメントを聞く前に一緒に。

(石橋議長) あの、話はたくさんあろうかと思えますけれども。

(紺野(佳)委員) 今の方の関連なんですけれども、非常勤講師の研修についてなんですけれども。すみません。県の社会教育研究大会、東北の研究大会も私、社会教育委員になった時によくわからないので参加しました。その時に公民館長と社会教育委員の集まりだったんですが、花巻からは公民館長さんには出なかったんですね。毎回出なかったんですね。公民館長さんは大変大事な役目を果たしているはずなのにこういう社会教育の研究会には出ないのかなと、ずっと思ってきたんです。今度提案された非常勤になるとますます出る機会がなくなるのかなとそういうことを心配しているんです。以上です。

(石橋議長) ありがとうございます。それは要望というかそういうことでよろしいですか。

(紺野(佳)委員) よくわからないということです。

(石橋議長) よくわからない、そうですか。はい、この点についてどうぞお願いします。

(事務局：市川課長) 一つ、おっしゃるとおり自由というか地域特性という格差が生まれるだろうという心配がございますので、そこはしっかり、それをトータルで見るのはやっぱりこちらの立場だと思っておりますので、そこはしっかりやっていきたいと考えています。あともう一つ研修は確かに必要でして、将来的にこのコミュニティが講座を行うような形にしていきたいという方向なわけですけれども、当然人材育成は市として支援していかなければいけないと思っておりますので、研修などたくさんありますので、それにコミュニティから参加してもらおうなどということも取りまとめたりして、十分人材育成の点はサポートしていきたいというふうに考えております。

(石橋議長) ありがとうございます。それでは伊藤委員さん、なるべく簡単にご質問をお願いいたします。

(伊藤(晴)委員) 実は私は大変大きな問題だと思っているので、前回も話をしたけれども、今回また提案が出てきてこのままでちょっと私危惧を感じているんですよ。というのはですね、例えば生涯学習をコミュニティ会議にやるとすれば、もう今年度中に計画をしなければならぬわけですよ当然。4月からでは遅いんですよ。さっきから出ている研修というのも実は4月からでは遅いですよ。今しないと本当に質の高いものを目指すには難しいんですよ。なので例えば講演会を企画する、果たしてどんなテーマでどんな方がどんな内容のものを持っているかわからないと企画できないんですよ。それは1年だけではできないですよ。相当ある程度経験を積まないと、こういった企画さらには運営までは難しいと私は思っています。それが突然今年度で非常勤もなくなりますよといったときに、果たして誰が今年度計画を作るかという問題、財政的に果たしてどうなのかという問題とこの2つはかなり大きい。将来的にはそれは可能かもしれないがもう来年度に差し迫っているんですよ。それをどうするかということが私は実は心配です。具体的な方法でやってかないと混乱を招くと思います。併せて一つ言うと、公民館の話が出ましたけれども自治公はこれも実はずっと何十年の歴史があつて、そういうことを全くしない自治公がたくさんあつて、私の地区はそういうのが9割です。そういう状況なのですよ。いきなりそれをやれと言われてもできないですこれは。なのでその辺りの詰めがないと、理想論、方法論、こういう方向にというだけでは私はできないと。そういう心配をしております。

(石橋議長) ありがとうございます。伊藤委員さんからの心配が提示されました。この点についてお願いいたします。

(事務局：市川課長) 私もですね、端的に言いますと来年からやろうとは考えていないです。そのとおり無理だと思っております。講座を組んでいくのは、はっきり言って来年のを今組むということが必要ですので無理だと思っております。社会教育主事なりが地域にいるわけでもありませんので、そういう人材がいればいいんですけれども、そういう面で方向性を定めて研修とかにも来ていただいて、そういうのをご理解いただいて、段々にコミュニティ

にやってもらうというのが目指すところかなと思っておりますので、そこはちょっとご理解いただきたいなど。これから地域にもいろいろ入ってですね説明しながら話を伺っていききたいというふうに思っております。当然、研修で人材を地域に育てていきたいというのは重点的にやっていきたいと思っております。あと地域の自治公民館での生涯学習についてはやってないところがほとんどというのもわかります。私住んでいるところでも、ただ地域での新年会ですとか親睦会だけが多いと、そういうところもありました。そこで生涯学習をやらなければいけないかというそういうわけではないと思いますし、ごく一部の好きな人たちが集まってやっているというところもありますし、そういうところは、コミュニティ単位で、コミュニティの地域づくりでやっていって欲しいというところを出していきたいと思っておりますし、あと皆さんのご意見を聞きながらですが、生涯学習の計画の中で、自治公民館でもやはりしっかりと生涯学習をしていくべきだということであればやはりそこはどう将来的に進むべきかというのを計画の中で示していければと考えておりますので、委員の皆様のご指導をいただければと考えております。

(石橋議長) どうもありがとうございました。ご意見は多々あるかと思えますけれども振興センターでの生涯学習事業については、この辺で打ち切らせていただきたいと思えます。その他が設けられてありますが、その他について委員の皆さんから何かございますでしょうか。特にございませんか。無ければですね今日の私の担当はこの辺で打ち切らせていただければと思います。活発なご意見をありがとうございました。

(事務局：菅原補佐) 大変ありがとうございました。それでは閉会に当たりまして、細川部長より一言ご挨拶申し上げます。

(事務局：細川部長) 本日は長時間に渡りまして活発なご意見、本当にありがとうございました。やはり、いろいろご意見あった中でも振興センターにおける生涯学習事業の部分につきましては、様々な地域の皆様方も含めてご意見をしっかりお聴きして支障のないようにやはり進めていかなければならないなど、改めて実感をした次第でございます。やはり人を育てなければならない部分ですとか、様々な課題が具体にあるというのも判明して参りましたので、そこは慎重に対応して参りたいと思えます。本日はいろいろ様々な意見ありがとうございました。そして、今年度予定しております今後生涯学習振興計画につきましてもまた引き続きご意見を頂戴したいというふうに思っておりますので、今後ともよろしく願い申し上げます。ありがとうございました。

## 5 閉会

(事務局：菅原補佐) 以上を持ちまして、第1回の花巻市社会教育委員会議を終了させていただきます。本日は大変お疲れ様でございます。